



2015年

6月

株主通信

セコム株式会社

第54期決算報告

当期の業績、新たなサービス、
超高齢社会への取り組みについて、
社長の伊藤 博から
ご説明させていただきます。



伊藤 博

セコム株式会社 代表取締役社長

社会の変化に伴って生 新たなお困りごとを セコムグループの 技術力と人財力で解決

**当期も売上高・営業利益・経常利益および
当期純利益が過去最高となりました。
所感をお聞かせください。**

経営成績は社会やお客様からどれだけ評価していただいたかを示すものですから、たいへん有難いことだと感謝しております。それと同時に、その評価と期待に引き続き応えていくことが大切ですので、今後も“ALL SECOM（セコムグループ総力の結集）”をより一層推進し、社会にとって有益なサービスを提供していきたいと考えています。

**昨年12月に試作機を発表して
大きな話題となった
「セコム飛行船」についてお話しください。**

民間防犯用としては日本初となる「セコム飛行船」は、セコムがこれまでに培ってきた画像認識技術や飛行ロボット技術などを駆使したもので、飛行船に搭載された高精細カメラなどを活用し、指定された敷地内で発生した異常を発見することはもちろんですが、地上に設置した防犯カメラや「小型飛行監視ロボット」、常駐警備員などと連携することで、上空と地上の両方から対象の敷地内を見守り、対処することができます。

大勢の人が集まる競技会場やイベント会場を上空から見守る革新的なサービスとなるよう、2016年中の実

まれる

していく

用化を目指しています。

**近年、被害が急増している
ネットバンキングの不正送金を防止する
「セコム・プレミアムネット」は、
どんなサービスですか。**

インターネットバンキングにおける不正送金の被害額は年々増加しています。しかし、これまで有効な対策がとられてきませんでした。

そこで、セコムの専用端末(USB)をお使いのパソコンに接続し電源を入れるだけで安全にネットバンキングなど

をご利用いただける「セコム・プレミアムネット」を開発しました。これはセコムのIT技術と、24時間365日の有人体制でサポートするオペレーション体制を活かしたサービスです。

特に個人のお客様の場合、「自分は大丈夫」と思っている方が多くいらっしゃるので、不正送金の現状を知っていただき、このサービスの拡販に努めていきます。

**社会の超高齢化にも、グループを挙げて
サービスの創出に取り組んでいるセコム。
今後の展望をお聞かせください。**

少子高齢化が進行する中で、老後に安心して暮らすために必要なサービスがまだ不足していると考えています。現在どのようなお困りごとがあるのか、どのようなサービスが本当に価値あるものかを、お客様に近いところで把握し、実際に試してみる必要があると考えました。

そこで、今年4月、高齢者のお困りごとに対応するくらしの相談窓口「セコム暮らしのパートナー久我山」を東京都杉並区に開設しました。地域に密着して、高齢者の方が日常的に直面するお困りごとをお聞きし、セコムグループや、地域のサービス事業会社と連携して対応していく拠点です。

今後は、ここでの取り組みをモデルに、住み慣れた地域で「安全・安心」に暮らしていただくために役立つサービスの創出を目指していきます。

最後に、株主の皆様メッセージをお願いします。

日本は2020年に開催される国を挙げてのイベントに向けて経済も社会も大きく変わっていくと思われま。セコムは、これから出てくるであろう新しい不安やお困りごとに対し、迅速で的確に対応し、「安全・安心・快適・便利」なサービスを創出していけるよう、セコムのバックボーンである技術力・人財力・オペレーション力を鍛えながら、取り組んでまいります。

最先端技術で空から異常を発見

「セコム飛行船」を開発

● 広域監視を行う高次元のセキュリティの実現を目指す

昨年12月、セコムは民間防犯用としては日本初となる「セコム飛行船」の開発について発表しました。

「セコム飛行船」は、地上に設置した防犯カメラや各種セキュリティシステム、「小型飛行監視ロボット」と連携することで、対象エリアを地上と上空から見守ることができるため、今までに

ない高次元のセキュリティの提供が可能となります。

飛行船には複数台の高精細カメラ、熱画像カメラ、指向性スピーカーなどを搭載し、各種カメラなどで得

られた情報はリアルタイムでセコムが運営するデータセンター「セキュアデータセンター」に集約されます。

そしてセコム独自の画像処理技術やセンシング技術、通信技術などにより解析し、異常発見時にはより迅速な状況把握と的確な対処、また災害時であれば的確な避難誘導を実現することができます。



広域監視を可能にする「セコム飛行船」



関心を集めた「セコム飛行船」の記者発表会

● 記者発表会では高い関心と期待を集める

昨年12月24日には、東京・原宿にあるセコム本社内で記者発表会を開催。「セコム飛行船」の開発は、テレビ各局や新聞でも報じられ、屋外イベントなどでの活用の可能性に高い関心と期待が集まりました。

現在、2016年中の実用化に向けて研究開発を進めている「セコム飛行船」。セコムの技術力、開発力、そして24時間365日のオペレー

ション体制を活かしたサービスにご期待ください。



独自の技術を駆使して開発

画像記録管理から異常監視までをセコムが行う

「セコム画像アーカイブサービス」の導入が進む

近年、企業内にある重要物の管理や工場の製造ラインなどの監視ニーズが高まっています。また、店舗や事務所、さらに公共の場における防犯カメラの設置が進み、その重要度が増えています。加えて、個人情報や機密情報の漏えいが社会問題化し、企業の内部統制強化に注目が集まるとともに、遠隔監視の需要が伸びています。

こうした多様なニーズに応えるべく、セコムは、画期的な次世代型防犯カメラシステム「セコムNVRシステム」を発売。さらに「セコムNVRシステム」のカメラを、セコムの「セキュアデータセンター」とインターネット回線でオンライン接続することにより、画像データを遠隔保管する「セコム画像アーカイブサービス」を新たに提供し、幅広い施設での導入が進んでいます。

「セコム画像アーカイブサービス」では、画像データを遠隔保管するので、監視対象拠点への記録装置の設置が不要で、装置の設定や管理もセコムが行います。厳格なセキュリティと堅牢性を誇る「セキュアデータセンター」で画像を保管するので、万一の災害時などでも、データ消失を防ぐことができ、画像データの安全性が格段に向上します。

セコムは、独自に構築したフィジカルセキュリティと情報セキュリティのノウハウを駆使し、拡張性に優れた防犯カメラシステムを提供していきます。



画像管理の安全性・利便性を向上させる
「セコム画像アーカイブサービス」

マイナンバーの収集・保管から使用までを支援

「セコムあんしんマイナンバーサービス」を販売開始

今年5月、セコムとセコムトラストシステムズ(株)は、10月から始まる「マイナンバー 社会保障・税番号制度」に伴い、民間企業に課せられる「マイナンバー(個人番号)」対応をトータルに支援する「セコムあんしんマイナンバーサービス」の販売を開始しました。

マイナンバー制度の施行により、ほぼすべての民間事業者は社会保険や税分野で使用するために、社員や関係者のマイナンバーを管理することとなります。マイナンバーは「特定個人情報」とされ、情報の保護措置を講じることが義務付けられています。

本サービスでは、お預かりしたマイナンバーを「セキュアデータセンター」内で物理面・運用面で厳格に監視します。企業がマイナンバーを使用する際にも端末を特定し、使用履歴等のアクセス管理を行います。

また、事務所などの出入管理から勤怠管理、給与計算などもセコムにお任せいただくことで、お客様のマイナンバー対応をトータルに支援します。

さらに将来、マイナンバーが使われるケースがより多くなることを視野に入れ、社会にとって高付加価値で、高い安全性と信頼性を持つ新たなサービスの創造を目指します。

データセンター内に専用区域を設置し
マイナンバーを安全にお預かり



「ウォークスルー顔認証システム」を販売開始

データセンターなどの重要施設で稼働開始

昨年秋から、独自の高度な画像処理技術や立体画像構成技術を駆使した「ウォークスルー顔認証システム」が販売開始となり、データセンターなどの重要施設での稼働が始められました。



ご契約先の重要施設で稼働中の「ウォークスルー顔認証システム」

近年、金融機関や食品工場をはじめ、あらゆる企業で厳格な出入管理と本人確認が求められています。

このたび開発した本システムは、施設内のエントランスや廊下などに防犯カメラを設置し、通行者があらかじめ登録された人物かどうかを認証します。

本システムは従来の顔認証システムと異なり、認証のためにカメラの前に一時立ち止まったり、カードをかざすなどの操作が不要で、歩いて通りすぎるだけで認証できることが大きな特長の一つです。また本システムは、電気錠付きの扉やセコム の 出入管理システムと連動させることもできます。

セコムはセキュリティはもちろん、機密情報や個人情報保護の観点からも、「ウォークスルー顔認証システム」をはじめ、ハイグレードなセキュリティのご提案を続けていきます。

産学官が連携するサイバー犯罪対策新組織

「日本サイバー犯罪対策センター」に参画

昨年11月、サイバー空間の脅威に対処するための非営利団体、一般財団法人「日本サイバー犯罪対策センター」(通称 JC3)に、セコムはフィジカルセキュリティも行う企業として唯一、正会員として参画することになりました。



日本サイバー犯罪対策センター開所式

本センターは産業界、学術研究機関、捜査機関の間で情報や知識、経験、ノウハウを共有すること、海外機関との連携を通じてサイバー犯罪の実態を解明し、背後に存在する犯罪者の追跡・特定を図るとともに、その脅威を軽減・無効化する取り組みを推進することを目的にしています。

昨今のサイバー空間の脅威の深刻化や複雑化に対処するためには、脅威に関する情報やその動向をグローバルな視点で把握することが重要です。

セコムは「セキュアデータセンター」の運営を通じて、サイバー攻撃に対する豊富な対応経験と技術力を有しています。セコムは「日本サイバー犯罪対策センター」での活動を通して、サイバー攻撃に対する社会的な対処力の向上を図り、「安全・安心」な社会の実現に貢献していきます。

セコムは「セキュアデータセンター」の運営を通じて、サイバー攻撃に対する豊富な対応経験と技術力を有しています。セコムは「日本サイバー犯罪対策センター」での活動を通して、サイバー攻撃に対する社会的な対処力の向上を図り、「安全・安心」な社会の実現に貢献していきます。

「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞

業務車両の環境対策車化に高い評価

昨年12月、セコムは環境省が実施する「平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)」を受賞しました。

地球温暖化対策を推進する一環として、1998年に環境省が創設したこの表彰制度では、毎年、地球温暖化防止に顕著な貢献のあった団体や個人を表彰しています。今年も、省エネルギーに貢献する技術や製品に関する「技術開発・製品化部門」、地球温暖化防止に貢献する取り組みや普及活動に関する「対策活動実践・普及部門」、地球温暖化についての教育活動に関する「環境教育活動部門」など、5部門で38件が受賞しました。

セコムでは、昨年3月にセキュリティ事業で使用する業務車両約5000台の環境対策車化を達成しました。また、省エネと安全運転を推進する「エコ安全ドライブ」にも取り組み、



セコムの緊急対応員と業務車両

エネルギー使用を大幅に削減。これらの取り組みと成果が高く評価されて、「対策活動実践・普及部門」において環境大臣表彰を受賞しました。

エネルギー使用を大幅に削減。これらの取り組みと成果が高く評価されて、「対策活動実践・普及部門」において環境大臣表彰を受賞しました。

今後もセコムでは、

グループ全体を通じて地球温暖化防止、資源の有効利用、生物多様性の保全など地球環境保全に配慮した行動を実践していきます。

環境省主催の「環境コミュニケーション大賞」で

セコムのCSRレポートが「環境報告優秀賞」を受賞



セコムのCSRへの取り組みをまとめた「CSRレポート2014」

今年2月、環境省と財団法人地球・人間環境フォーラムが主催する第18回「環境コミュニケーション大賞」が発表され、セコムのCSR(企業の社会的責任)への考え方や取り組み、重点トピックスをまとめた「CSRレポート2014」が「環境報告優秀賞」を受賞しました。

この表彰制度は、優れた環境報告書などを表彰することで、企業の環境コミュニケーションへの取り組みを促進するとともに、情報開示の質の向上を図ることを目的として実施されており、環境報告書部門、環境活動部門、テレビ環境CM部門の3部門があります。

セコムでは、「社業を通じ、社会に貢献する」という企業姿勢や社会・環境課題を独自の技術力で解決していくセコムの姿を中心に「CSRレポート」をまとめ、情報の開示を充実させてきました。

今回の審査では、環境に配慮した「資源循環型・低炭素型」のビジネスモデルやさまざまな環境保全活動の実績に加え、分かりやすくまとめた報告書であることが評価され、本賞の受賞となりました。

「CSRレポート」は、セコムのウェブサイトでご覧いただけます。

地域に密着し高齢者のお困りごとに対応する

「セコム暮らしのパートナー久我山」を開設

今年4月、セコムは久我山周辺(東京都杉並区)の地域で「セコム・ホームセキュリティ」をご契約いただいている高齢のお客様向けに、暮らしのお困りごとに対応する拠点「セコム暮らしのパートナー久我山」を開設し、サービス提供を開始しました。



東京都杉並区に開設した「セコム暮らしのパートナー久我山」

「セコム暮らしのパートナー久我山」では、365日体制で駐在する専任スタッフが、「セキュリティ」という枠を超えて、お客様のお困りごとをうかがいます。

そして、ご相談をお受けした情報に基づき解決方法を検討し、セコムグループのみならず、地域や行政、その他民間事業会社とも連携し、お客様のお困りごとを解決するサービスをご提案します。

セコムは久我山周辺で早くから訪問看護ステーション、セコム薬局、在宅総合ケアセンター、久我山病院(セコム提携病院)、シニアレジデンスなど、多くの拠点を構築しており、これらのネットワークを活かし、今回の新サービスが実現しました。

地域に密着し、高齢者の日々のお困りごとにワンストップで対応する「セコム暮らしのパートナー久我山」。セコムは、「超高齢社会」の課題解決に向けて取り組んでいきます。

日本初、経営者と社員の健康をトータルに管理

「KENKO フレックス・コーポレート会員」を販売開始

企業が積極的に従業員の健康状態を把握し、サポートすることが重要視されているなか、セコム医療システム(株)は、法人向け健康管理サービス「KENKO フレックス・コーポレート会員」を、昨年11月から販売開始しました。

これは、法人向けのサービスで、1法人契約に対し、法人内の不特定の方1名が年1回受けられる人間ドックと、全従業員が無料の電話健康相談を受けられるサービスが一体となった、日本初(セコム調べ)のサービスです。

セコム医療システムは、精度の高い診断を可能にするPET/CT検査をはじめ、高度で先進的な医療を提供する都市型先端医療センター、医療法人社団あんしん会「四谷メディカルキューブ」(東京都千代田区)と提携し、会員制の「セコム健康くらぶ KENKO」を2005年から運営しています。



「セコム健康くらぶ KENKO」の人間ドック

「KENKO フレックス・コーポレート会員」は、「利用権」を購入いただいた企業の経営者の方などに対し、「四谷メディカルキューブ」が誇る高精度の人間ドックを、そして、

従業員全員に対しては電話健康相談サービス(24時間対応)を提供する、トータルな健康管理サービスです。

セコムは、高付加価値で高品質なメディカルサービスの提供を通じて、社会に貢献していきます。

地域とのつながりを重視した介護付有料老人ホーム

「アライブ品川大井」を開設

今年2月、セコムグループで介護付有料老人ホームの運営を手がける(株)アライブメディケアは、10カ所目となる介護付有



地域の医療機関や商業施設とも連携する
「アライブ品川大井」

料老人ホーム「アライブ品川大井」を東京都品川区にオープンしました。

「アライブ品川大井」は、セコムのセキュリティを導入した「安全・安心」な施設で、高齢者医療・介護のノウハウ

を活かし、充実した介護サービスを提供します。

さらに、国が目指している、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう地域が一体となり支援する「地域包括ケアシステム」の構築に貢献する、新しい形の介護付有料老人ホームとして展開します。

具体的には、地域の総合病院と連携し、日々の健康管理から訪問診療、救急医療まで、医療を継続して受けられるような環境を提供します。また、地域の百貨店と連携し、百貨店の循環バスの停留所を設置したり、地域包括支援センターや成年後見センターなどの支援機関とも連携することで、ご入居者の豊かな生活を支援します。

アライブメディケアは、セコムの高齢者医療・介護の経験を活かして、「超高齢社会」を支える介護付有料老人ホームを展開していきます。

医療・介護・健康サービス連携のマンション

「ザ・パークハウス 千歳烏山グロリーオ」を販売

不動産事業を担うセコムホームライフ(株)は、東京都世田谷区に、三菱地所レジデンス(株)と共同で、医療・介護・健康サービスを連携して提供する分譲マンション「ザ・パークハウス 千歳烏山グロリーオ」を今夏から販売開始します。

京王線の急行停車駅「千歳烏山」駅から徒歩3~4分とアクセスが良い立地に、2棟からなる全265邸のマンションは、1Kから4LDKまで多世代に向けた多彩なプランを用意。セコムのマンションセキュリティシステムや、看護師による電話健康相談サービス「セコム・メディカルクラブ」で「安全・安心」を提供します。

さらに、将来の健康状態や家族構成の変化に伴う不安に備えた住まいのニーズにお応えして、マンションに隣接して、セコム医療システム(株)が運営する「セコムカリア千歳烏山」(仮称)が新設されます。訪問看護・訪問介護・デイサービス・居宅介護支援を提供するこの拠点では、健康相談から介護・看護まで総合的にサポートする「健康・予防センター」(仮称)も併設し、マンションご入居者だけでなく近隣住民の方もサポートしていきます。

セコムのセキュリティ、メディカル、不動産のノウハウを結集し、多世代に「安全・安心」な暮らしを提供していきます。

大規模分譲マンション
「ザ・パークハウス 千歳烏山グロリーオ」(完成イメージ)



「走り続けるセコム」が長距離競技を協賛・支援 協賛・支援を通じて日本スポーツ界の発展に寄与

● 「第91回箱根駅伝」に事業協賛 学生スポーツを支援

創業以来、目標に向かって走り続ける企業風土を育んできたセコムは、今年1月2日、3日に開催された「第91回



©月刊陸上競技

沿道警備で安全な大会運営に努めた

箱根駅伝」(東京箱根間往復大学駅伝競走)に事業協賛しました。

日本で最も歴史があり、最も人気がある学生駅伝である箱根駅伝は、年を追うごとに人気が高まっています。

また、一般道での開催であることを考慮し、安全で円滑な大会運営のために、警備強化が求められていました。

セコムは、今回の事業協賛を通じて、学生ランナーの安全確保をはじめ、沿道での安全な応援環境作りに貢献しました。

● 「東京マラソン2015」のオフィシャルパートナーに 監視カメラと常駐警備員で大会の安全運営に寄与

世界最高峰のアボット・ワールドマラソンメジャーズ6大会の一つで日本最大のマラソン大会である東京マラソン。セコムは、今年2月22日に開催された「東京マラソン2015」のオフィシャルパートナーとして、「安全・安



©東京マラソン財団

沿道に設置された
セコムのネットワーク監視カメラ

心」な大会の運営を支援しました。2013年のボストンマラソンで発生したテロ事件を契機に、大会の安全運営が求められた本大会では、セコムの最先端技術を駆使したネットワーク監視カメラを沿道に設置。また、セコムの常駐警備員が、入場ゲートで手荷物検査や入場者の安全誘導などを実施し、安全で円滑な大会運営に寄与しました。

● 「第1回さいたま国際マラソン」に協賛 オフィシャルセキュリティとして大会をサポート

セコムは、11月15日にさいたま市で開催が決まった「第1回さいたま国際マラソン」にオフィシャルセキュリティとして協賛します。



本大会は2016年リオデジャネイロ・オリンピックの女子マラソン代表選手の選考会を兼ねた国際マラソン大会として開催さ

れます。また、市民ランナーも参加する市民マラソンも共同開催されます。

セコムはこれまでの経験を活かし、安全で、楽しく、快適な大会の実現を目指します。

インターネット取引を取り巻く脅威にいち早く対応 セコム独自の技術で「安全・安心」に貢献

時代や社会の変化を先読みして、社会に必要なサービスやシステムを創出するセコムグループ。

今回は、情報通信事業を担う、セコムトラストシステムズ(株)の新サービス「セコム・プレミアムネット」についてご紹介します。

■ ネットバンキングにおける不正送金の被害が増加しています。 被害の実態について教えてください。

ネットバンキングで、犯罪者によって不正に口座からお金が抜き取られてしまう被害を不正送金と言います。

従来は、利用者を不正なサイトに誘導して、IDやパスワードをだまし取り、口座から不正に送金する「フィッシング」という手口が主流でした。しかし近

年、パソコンの中に未知のウイルスを侵入させ、不正な口座に送金させる新たな手口が出てきました。未知のウイルスで気づきにくいので、被害が増えており、2014年の被害額は約29億1000万円と過去最高でした。



セコムトラストシステムズ(株)

取締役 田村正典

Masanori
Tamura



ネットバンキングサイトに誘導することが可能です。ご採用いただいた金融機関からは、高い評価を得ています。

■ インターネット社会における「安全・安心」に貢献するために、 今後どのように取り組んでいきますか。

金融機関向けのサービスとして開始した「セコム・プレミアムネット」ですが、日常的にネットバンキングを利用される個

■ 不正送金に対するセコムトラストシステムズ(株)の 取り組みを教えてください。

不正送金は、ウイルス対策ソフトを常に最新の状態にするといった従来の対策では防げないのが現状です。

そこで、セコムトラストシステムズでは、まったく新しい発想で開発した法人向けサービス「セコム・プレミアムネット」を2013年12月に販売開始しました。このサービスでは、セコムが開発した専用のUSB端末を使い、安全な通信経路で銀行の

人の方からのご要望を多くいただき、個人のおお客様がご契約いただける「セコム・プレミアムネット」(個人)を昨年11月から販売開始しました。

「セコム・プレミアムネット」(個人)は5月には証券オンライントレードにも対応可能になるなど、さらなる進化を続けていきます。

セコムトラストシステムズでは、今後もインターネット上のさまざまな取引に安全にご利用いただけるように、サービスの拡充を進めていきます。

金融業界のインフラを担う仕事に誇りを持ち 安全・確実・迅速にサービスを提供

セコムのセキュリティシステムは、安全のプロによるサービスがその質を決めます。

今回は、ご契約先の金融機関からお預かりした現金を安全に運搬・管理する、セコムの現金護送サービスについてご紹介します。

■ 現金護送サービスとはどのようなものですか。

セコムでは、金融機関の資金や有価証券などの貴重品を「^{まも}護って」運搬するサービスを、「現金輸送」ではなく、「現金護送サービス」と呼んでおり、二つの部門で業務を行っています。

一つは、特殊車両で貴重品を目的地まで護送するほか、金融機関のATMへ資金補充・回収業務を行う「補填現送部門」です。もう一つは、ATMが滞りなく稼働するように、資金の最適な補填計画を立案するとともに、ATMから回収した現金を管理する「資金管理部門」です。

現金護送 サービス



本社現送業務部長

片山幸康

Yukiyasu
Katayama



ATMが普及し、さらにはコンビニなどで24時間利用できるようになり、私たちの暮らしは便利になりました。お客様がいつでもATMをご利用いただけるように、金融業界のインフラを担っているという誇りを持って仕事に就くよう、スタッフには指導しています。

■ セキュリティスタッフはどのようにして、安全かつ確実に現金護送サービスを提供しているのですか。

すべてのスタッフが、セコムが長年に亘って練成してきた「システム行動」に基づき、安全・確実・迅速にサービスを提供しています。

これは、ご契約先の資金を安全に運搬・管理するためにはもちろん、高品質なサービスを全国で均一に提供するためには欠かせないことです。

■ 今後どのようなことに力を入れていきますか。

社会の期待を超える高品質なサービスをご提供していくために、チャレンジ精神旺盛な社員にはさらなる自己成長の機会を与えるなど、人材の育成には特に力を入れて取り組んでいきます。

今後もセコムの現金護送サービスを通じて、金融機関の皆様への「安全・安心」や資金効率の向上に貢献できればと考えています。

日本での経験とノウハウを活かし インドの地域医療に貢献

多くの方に高品質な 医療サービスを提供する

セコムのメディカルサービス事業を担うセコム医療システム(株)と豊田通商(株)、そしてインドの現地企業であるキルロスカ・グループがインド南西にあるカルナータカ州の州都ベンガルールに開院した「サクラ・ワールド・ホスピタル」が開院から1年を迎えました。



「サクラ・ワールド・ホスピタル」

患者様のほとんどが現地の方ですが、日本人駐在員とそのご家族や外資系企業などの外国人の方々も来院されて

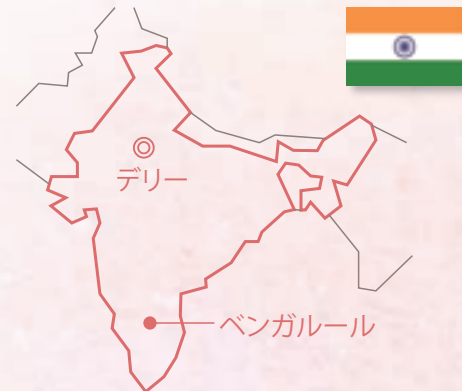


農村部などにおける健診・予防医療サービス

います。

また、昨年秋には独立行政法人国際協力機構(JICA)の支援のもと、健診車を用いた企業健診の立ち上げと、農村部などにおける健診・予防医療サービスの実現を目指して

現地調査を行うなど、インドの地域医療に貢献できるよう取り組んでいます。



セコムグループは、
セキュリティをはじめ、防災、メディカル、
地理情報サービス事業で海外に展開。
現在21の国と地域で「安全・安心」を提供しています。

高度で安全な医療サービスの提供と さらなる認知度の向上を目指す

開院後も日本国内のセコムの提携病院から医師や看護師をはじめ医療関係者が訪印し、医療安全の推進、看護教育の確立、医師の臨床研修の仕組みの確立に取り組み、高度で安全な医療サービスの提供を目指しています。

「サクラ・ワールド・ホスピタル」は、これからも「最善の

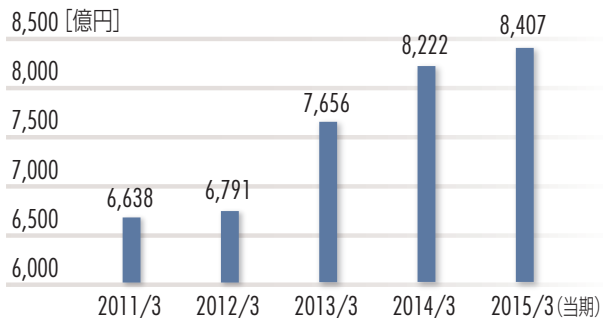
医療サービスで患者様のより良い生活をサポートする」という使命のもと、きめ細やかなサービスでインドの医療に貢献していきます。



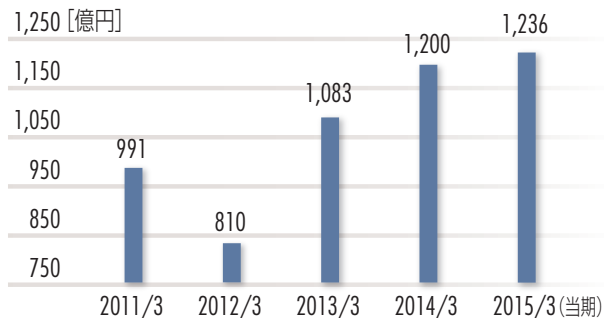
高度な医療技術で最善の医療を提供

連結決算 業績ハイライト

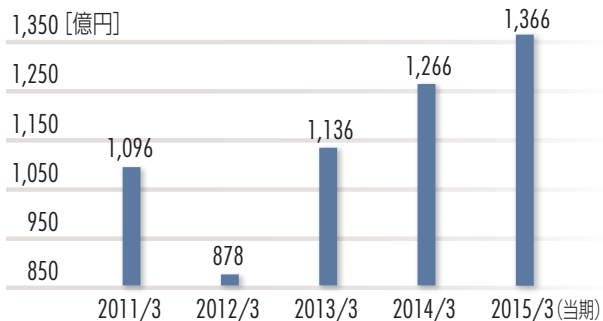
売上高



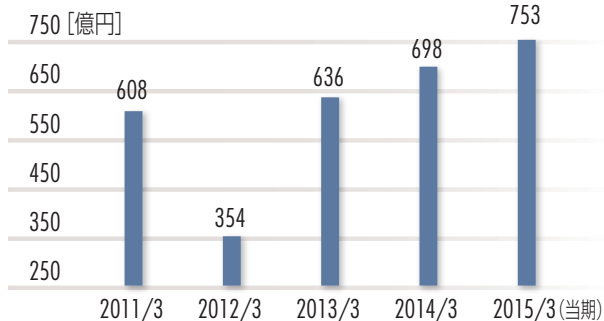
営業利益



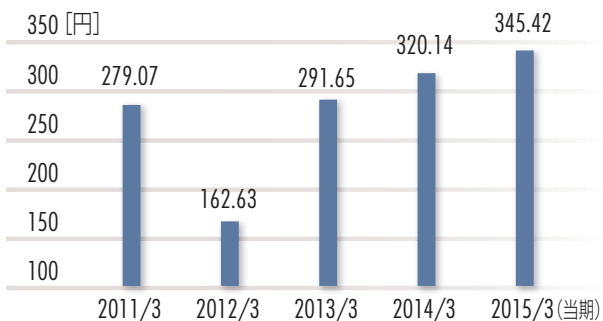
経常利益



当期純利益

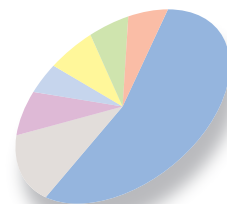


1株当たり当期純利益



事業別売上高内訳 2015/3(当期)

● セキュリティサービス事業	4,688 [億円]	55.8%
● 防災事業	1,211	14.4%
● メディカルサービス事業	601	7.1%
● 保険事業	377	4.5%
● 地理情報サービス事業	527	6.3%
● 情報通信事業	477	5.7%
● 不動産・その他の事業	522	6.2%



連結貸借対照表(要旨)

2015年3月31日現在

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	6,001
現金及び預金	2,322
現金護送業務用現金及び預金	503
受取手形及び売掛金	1,140
未収契約料	263
有価証券	285
リース債権及びリース投資資産	392
たな卸資産	355
販売用不動産	241
繰延税金資産	128
短期貸付金	22
その他	346
固定資産	8,105
有形固定資産	3,621
建物及び構築物	1,483
警報機器及び設備	704
土地	1,196
その他	237
無形固定資産	494
投資その他の資産	3,989
投資有価証券	2,843
長期貸付金	429
退職給付に係る資産	350
繰延税金資産	48
その他	318
繰延資産	0
資産合計	14,107

負債の部

流動負債	2,477
支払手形及び買掛金	431
短期借入金	449
一年以内償還予定社債	14
未払金	338
未払法人税等	210
前受契約料	313
その他	719
固定負債	2,556
社債	84
長期借入金	206
預り保証金	360
退職給付に係る負債	185
保険契約準備金	1,501
その他	219
負債合計	5,033

純資産の部

株主資本	7,676
資本金	663
資本剰余金	802
利益剰余金	6,946
自己株式	△737
その他の包括利益累計額	328
少数株主持分	1,068
純資産合計	9,073
負債純資産合計	14,107

連結損益計算書(要旨)

<単位：億円>

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当期(2014年4月1日から 2015年3月31日まで)	前期(2013年4月1日から 2014年3月31日まで)	増減率
売上高	8,407	8,222	2.2%
売上原価	5,578	5,429	
売上総利益	2,828	2,792	1.3%
販売費及び一般管理費	1,592	1,592	
営業利益	1,236	1,200	3.0%
営業外収益	183	131	
営業外費用	52	64	
経常利益	1,366	1,266	7.9%
特別利益	19	20	
特別損失	113	38	
税金等調整前当期純利益	1,272	1,248	2.0%
法人税、住民税及び事業税	431	484	
法人税等調整額	△ 0	△ 21	
少数株主損益調整前当期純利益	841	784	7.3%
少数株主利益	87	85	
当期純利益	753	698	7.9%

営業の概況(連結)

当連結会計年度の日本経済は、円安・株高が進行する中、消費税率引き上げ後の個人消費に弱さがみられたものの、企業収益や雇用・所得環境に改善がみられ、緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況の中で、「安全・安心」に対する社会的ニーズはますます多様化・高度化しており、セコムグループは、「いつでも、どこでも、誰もが安全・安心に暮らせる社会」を実現する「社会システム産業」の構築を目指し、お客様のニーズに合致した、質の高いサービス・商品を提供することに努めました。また、さらなる成長に向けて、「ALL SECOM」を継続的に推進しました。さらに、今後の日本の社会を見据えて、「セキュリティ」をベースに「超高齢社会」、「災害・BCP(事業継続計画)・環境」といったキーワードを切り口として、「ALL SECOM」による「安全・安心・快適・便利」な明るい未来の実現に向けた取り組みを加速しました。

この結果、当連結会計年度における売上高は8,407億円(前期比2.2%増加)となり、営業利益は1,236億円(前期比3.0%増加)となりました。経常利益は米国などにおける投資事業組合運用益92億円(前期は40億円)を計上したことなどにより、1,366億円(前期比7.9%増加)、当期純利益は753億円(前期比7.9%増加)となりました。なお、売上高、営業利益、経常利益および当期純利益はいずれも過去最高を達成することができました。

<参考> ●連結子会社数 169社
●持分法適用関連会社数 25社
●1株当たり当期純利益 345円42銭

連結株主資本等変動計算書(要旨)

2014年4月1日から2015年3月31日まで

<単位：億円> *注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	株主資本					その他の包括利益 累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
当連結会計年度期首残高	663	830	6,562	△736	7,320	△ 19	1,002	8,303
会計方針の変更による累積的影響額		△ 27	12		△ 15		△ 1	△ 16
会計方針の変更を反映した当連結会計年度期首残高	663	802	6,574	△736	7,304	△ 19	1,001	8,286
剰余金の配当			△381		△381			△ 381
連結 当期純利益			753		753			753
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
自己株式の処分		0		0	0			0
少数株主との取引に係る親会社の持分変動		△ 0			△ 0			△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						347	67	414
連結会計年度中の変動額合計	-	△ 0	371	△ 0	371	347	67	786
当連結会計年度末残高	663	802	6,946	△737	7,676	328	1,068	9,073

貸借対照表(単体・要旨)

2015年3月31日現在

<単位：億円>

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	2,100
現金及び預金	935
現金護送業務用現金及び預金	483
未収契約料	160
売掛金	112
たな卸資産	80
短期貸付金	204
その他	123
固定資産	5,857
有形固定資産	1,185
建物	164
警報機器及び設備	677
土地	283
その他	60
無形固定資産	53
投資その他の資産	4,618
投資有価証券	297
関係会社株式・出資金	2,410
長期貸付金	1,509
長期前払費用	221
前払年金費用	215
その他	△ 35
資産合計	7,957

負債の部

流動負債	1,186
買掛金	31
短期借入金	294
未払金	201
未払法人税等	108
預り金	167
前受契約料	212
その他	170
固定負債	269
預り保証金	172
退職給付引当金	32
その他	64
負債合計	1,456

純資産の部

株主資本	6,437
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	5,680
自己株式	△ 737
評価・換算差額等	63
その他有価証券評価差額金	63
純資産合計	6,501
負債純資産合計	7,957

損益計算書(単体・要旨)

2014年4月1日から2015年3月31日まで

<単位：億円>

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

売上高	3,706
売上原価	2,214
売上総利益	1,492
販売費及び一般管理費	760
営業利益	731
営業外収益	117
営業外費用	33
経常利益	815
特別利益	16
特別損失	28
税引前当期純利益	804
法人税、住民税及び事業税	228
法人税等調整額	1
当期純利益	574

<参考> ●1株当たり当期純利益 263円41銭

会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数(グループ総数) 54,318名(2015年3月31日現在)
- 事業内容

1962年、日本初の警備保障会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システムの提供、各種安全商品などの販売を通じて、社会に「安全・安心」を提供しています。

セコムグループは、社会にとって「安全・安心・快適・便利」なサービスやシステムを次々に創造し、それらを統合化・融合化して、トータルな新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築を目指しています。

取締役 (2015年6月25日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
代表取締役会長	前田修司
代表取締役社長	伊藤 博
常務取締役	中山泰男
常務取締役	安齋和明
常務取締役	中山潤三
常務取締役	古川顕一
取締役	吉田保幸
取締役	布施達朗
取締役(社外)	廣瀬篁治*
取締役(社外)	澤田貴司*

監査役 (2015年6月25日現在)

監査役(常勤)	伊東孝之
監査役(常勤)	小松良平
監査役(社外)	加藤秀樹*
監査役(社外)	関家憲一*
監査役(社外)	安田 信*

*印の5名を独立役員として
東京証券取引所に届け出ております。

執行役員 (2015年6月25日現在)

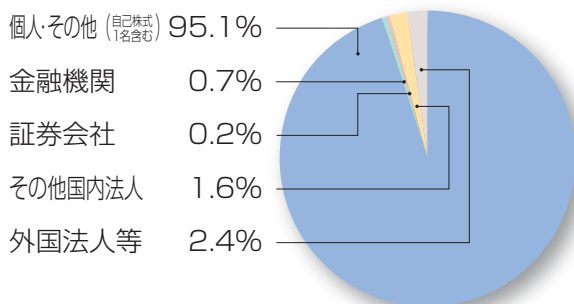
代表取締役会長	前田修司
代表取締役社長	伊藤 博
常務取締役	中山泰男
常務取締役	安齋和明
常務取締役	中山潤三
常務取締役	古川顕一
常務執行役員	向井俊之
常務執行役員	竹田正弘
常務執行役員	吉村輝壽
常務執行役員	森下秀生
常務執行役員	小松崎大夫
常務執行役員	水野都飽
取締役	吉田保幸
取締役	布施達朗
執行役員	石川 博
執行役員	杉本陽一
執行役員	泉田達也
執行役員	石村昇吉
執行役員	福満純幸
執行役員	進藤健輔
執行役員	尾関一郎
執行役員	桑原靖文
執行役員	福岡規行

Information

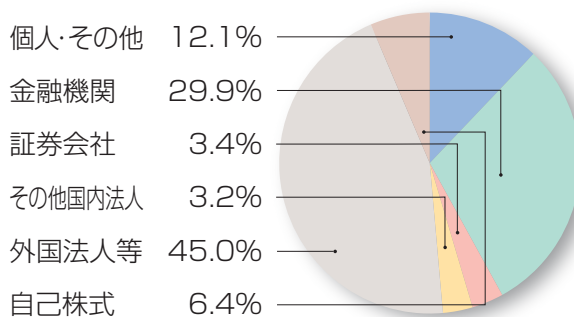
株式の状況(2015年3月31日現在)

1.発行可能株式総数	900,000,000株
2.発行済株式の総数	233,288,717株
3.単元株式数	100株
4.株主数	24,852名
5.所有者別状況	

●株主数比率



●株式数比率



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
- 株主優待制度 毎年3月31日現在における当社株式
100株以上保有の株主様に、当社
グループで利用可能な優待券を贈呈。
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告
<http://www.secom.co.jp/koukoku/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない場合
には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

株式に関する各種手続きについて

- 証券会社に口座がある株主様は… ▶ 口座がある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株式の株主様は… ▶ 下記の特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。
- 未払い配当金のお支払いに関するお問い合わせは… ▶ 下記の株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人 特別口座管理機関 **三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部**

〒137-8081

東京都江東区東砂7丁目10番11号

☎ 0120-232-711 [平日 9:00-17:00]

手続用紙のご請求

☎ 0120-244-479 (音声自動応答)

☎ 0120-232-711 [平日 9:00-17:00] <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

信頼される安心を、社会へ。

SECOM

今日も、
セコムと
お出かけ。



セコムが駆けつける。看護師と話せる。介護事業者へつなぐ。

セコム・マイドクタープラス

1 外出先など屋外でも セコムが駆けつけます。

ブザー用ストラップを引くとセコムへ救急通報。セコムからお電話の上、119番通報や、セコムの駆けつけを行います。



2 セコムの看護師に、24時間365日 健康相談ができます。

専用端末の簡単な操作でセコムナースセンターにつながります。



3 あなたの「救急情報」を しっかりと預かり。

持病やご家族の連絡先などの「救急情報」をセコムが安全にお預かり。救急時、救急隊員・医療機関への情報提供に努めます。



4 介護が必要な時は、 別途ご契約の介護事業者へお取次も可能です。

※介護契約のご検討には、ニチイやツクイをご紹介します。(一部地域限定)



引っばるだけで、セコムへ通報！

携帯電話としてもご利用可能です。

ご利用料金

基本料金 **1,800** 円/月(税別) + セコム・ホームセキュリティ月額料金

※現場急行料金などが別途発生する場合があります。

セコム・マイドクタープラスは別途セコム・ホームセキュリティのご契約が必要です。専用端末の操作・サービスの特性上、ご利用が難しくなる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

セコム

検索

0120-025756 (24時間・年中無休)

セコム株式会社

表紙写真のご説明

セコム飛行船

セコムが培ってきた画像認識技術や飛行ロボット技術などを駆使し、広域の安全を見守る飛行船。高精細カメラなどを搭載して指定された敷地内を上空から監視し、異常を早期に発見できるよう現在開発中です。また、セキュリティだけでなく、災害時の迅速な被災状況の把握や避難誘導に活用していくことも目指しています。



本誌は環境に配慮し、FSC® 認証紙および植物性インキを使用しています。

セコム コーポレート広報部 757-15-06-000

株主通信(No.126) 2015年6月発行 発行/セコム株式会社 東京都渋谷区神宮前1-5-1 TEL:03-0000-1 FAX:03-5775-8100 F.AX:03-5775-8900